

(内部用)

# 教員活動評価実施報告書

平成 27 年度

教育・研究等評価室

## 平成 27 年度 教員活動評価実施報告書

### 1. 概要

本学では、「教員個人の活動状況を点検することによって、その活動の一層の活性化を図り、本学の教育・研究の質の向上と運営等の改善に資する」という目的の下に、例年、教員個人の教育研究等の活動評価を実施している。平成 26 年度の教員活動についても、下表のとおり評価を実施した。

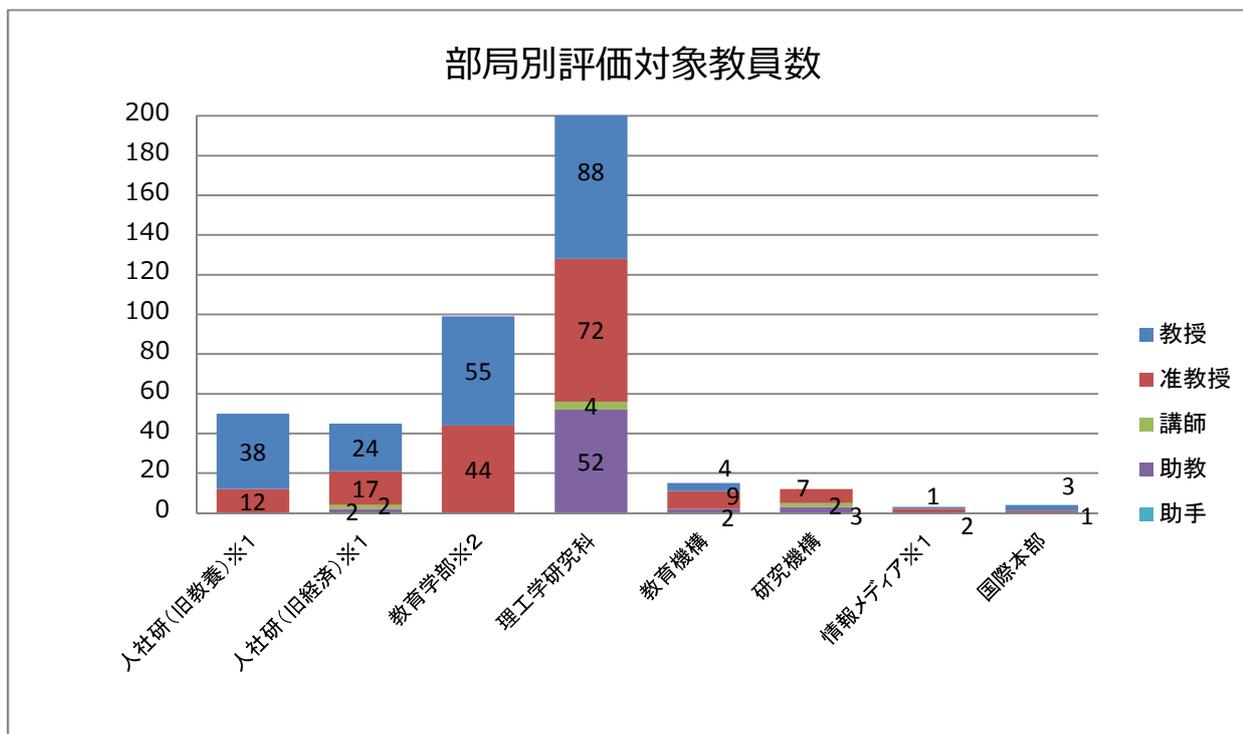
実施期間	教員活動報告書提出期間:平成 27 年 5 月 26 日 (火)～平成 27 年 8 月 3 日 (月) 部局長評価期間:平成 27 年 9 月 7 日 (月)～平成 27 年 11 月 20 日 (金)
対象者	平成 27 年 4 月 1 日現在で本学に在籍している教員 ※新規採用教員、休職中の教員及び教諭は除く
対象領域	4 領域 (教育活動、研究業績、大学運営への貢献、社会への貢献)
評価対象期間	平成 26 年度実績 (研究に関して過去 2、3 年間の業績に基づき評価する部局あり。)
提出者	全評価対象者 444 名 (提出率 100%)

### 2. 評価の実施体制、方法

「埼玉大学における教員活動評価の基本方針」、「埼玉大学における教員活動評価の実施要項」、各部局の教員活動評価実施要領に従い、評価対象教員が提出した平成 26 年度実績分の教員活動報告書に基づいて、部局長が所属教員の評価を行った。

また、人文社会科学研究科においては、設置初年度ということで旧教養学部、旧経済学部それぞれの教員活動評価実施要項に従って評価を行った。それに伴い、項目別の評価結果も分けて示している。

### 3. 評価対象教員数



※1 人社研(旧教養)は人文社会科学研究科(旧教養学部)、人社研(旧経済)は人文社会科学研究科(旧経済学部)、情報メディアは情報メディア基盤センターの略。※2 附属教育実践総合センターは教育学部に含む。

(内部用)

#### 4. 評価の尺度

3. 活動は極めて優れている
2. 活動は期待される水準に達している
1. 活動は不十分で改善を要する

#### 5. 全体の評価結果

埼玉大学は、地域活性化の中核となり、世界/日本の教育研究拠点として光を放つことを目指して、改革を進めてきている。そこで、教育、研究、社会貢献の3領域について、教員活動を概観する。

大学全体でみると、教育領域で3の評価を受けた教員の割合は約34%、2の評価は約66%、1の評価はほぼ0%であった。研究領域では、3の評価は約36%、2の評価は約58%、1の評価は約6%であった。社会貢献領域では、3の評価は約35%、2の評価は約62%、1の評価は約3%であった。3領域のバランスをみると、今回の評価結果では、いずれの領域の評価でも、ほぼ同じような分布となっている。前回の評価と比べると、研究領域では前回4割近い教員が3の評価を得ていたのと比べて、若干の減少がみられる。しかし、教育領域と社会貢献領域では、3の評価の割合が前回の3割程度から伸びている。このため、教育領域と社会貢献領域では、前回の評価結果に基づき教員活動の改善がなされたといえる。また、すべての領域で1の評価の割合が減少しており、この点からも、教員の活動が全体として向上したと評価できる。

教育領域について、本学は、平成26年度、①理工系人材育成の量的・質的強化のため、理工系人材育成戦略を踏まえて理工学研究科博士前期課程の定員を50名増員し、学士・修士6年一貫教育の準備を進め、②人社系人材育成の質的強化のため、既存の文化科学研究科と経済科学研究科を統合して人文社会科学研究科を設置する改組を決定し、③教員養成の質的強化のため、小学校教員養成へシフトするカリキュラム改革等を行うとともに、教職大学院の設置を文部科学省に申請した。各部局が組織としてこれら大学改革の取組を着実に遂行するとともに、各教員がこれらの大学改革を理解して、教育活動の一層の向上に努めることが求められよう。

社会貢献領域では、日経BP社の「大学ブランド・イメージ調査2015-2016」【首都圏版】でのブランド評価結果において、本学は「地域社会・文化に貢献している」で1位を3年連続で獲得するなど、外部から高い評価を得ている。前回より3の評価を得た教員が増加しており、教員のこの領域における活発な活動が、外部の高評価を維持することにもつながっているとみることができる。この評価を維持しつつさらに地域の活性化に貢献するよう、今後も、多くの教員が積極的に社会貢献に取り組むよう、部局としても工夫することが必要であろう。

研究領域では、前回より若干3の評価を受けた教員が減少した。しかし、過去3年間の研究活動の業績ごとの経年変化をみると、研究活動が全体として停滞しているわけではない。そして、本学は、より高い研究水準を目指して、平成26年度に、強みを有する研究分野への資源集中として戦略的研究部門(ライフ・ナノバイオ領域、グリーン・環境領域、感性認知支援領域)を設置した。この部門に重点配置された教員の研究活動がより活性化することはもちろん、他の教員もこれらの教員と競ってより一層の研究活動を行うことが期待される。

各部局の評価は、今年度も全体としておおむね適切に行われていると評価することができる。もっとも、部局横断的に見ると、領域によっては各部局ごとに評価の分布が大きく異なっている。部局によ

(内部用)

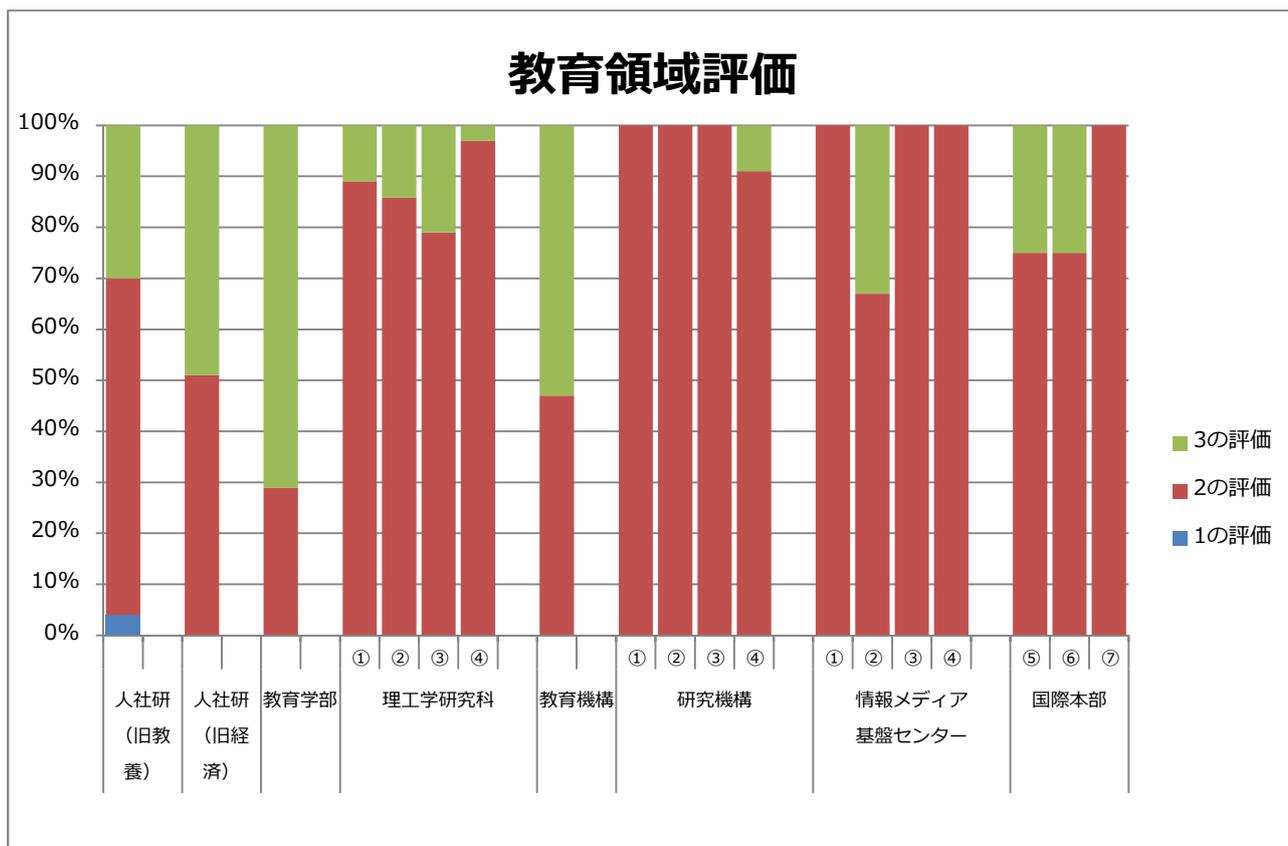
て評価基準が異なるために単純な比較ができないことはもちろんであるが、3の割合の低い部局に教員活動の一層の活性化のための工夫を求めるとともに、3の割合の高い部局には、より高い水準を目指しての評価基準の検討も望みたい。また、各部局で把握している課題については、次年度へ向けて、教員活動のさらなる活性化のために改善に積極的に取り組むことを期待する。評価及び改善の取組みを可視化することは、今後一層求められるので、とくに評価の結果明らかになった教員活動の課題とそれに対する改善策について、部局長コメントをより充実させることを求めたい。さらに、本学の教員活動の優れた点を外部に積極的に公表していくことも必要となるので、そのような活動について積極的にコメントで言及することも求めたい。

## 6. 領域別評価結果

各部局の評価結果を領域ごとにグラフ化した。領域評価を実施しない部局については、領域内の項目をすべてグラフ化した。

### ○教育領域

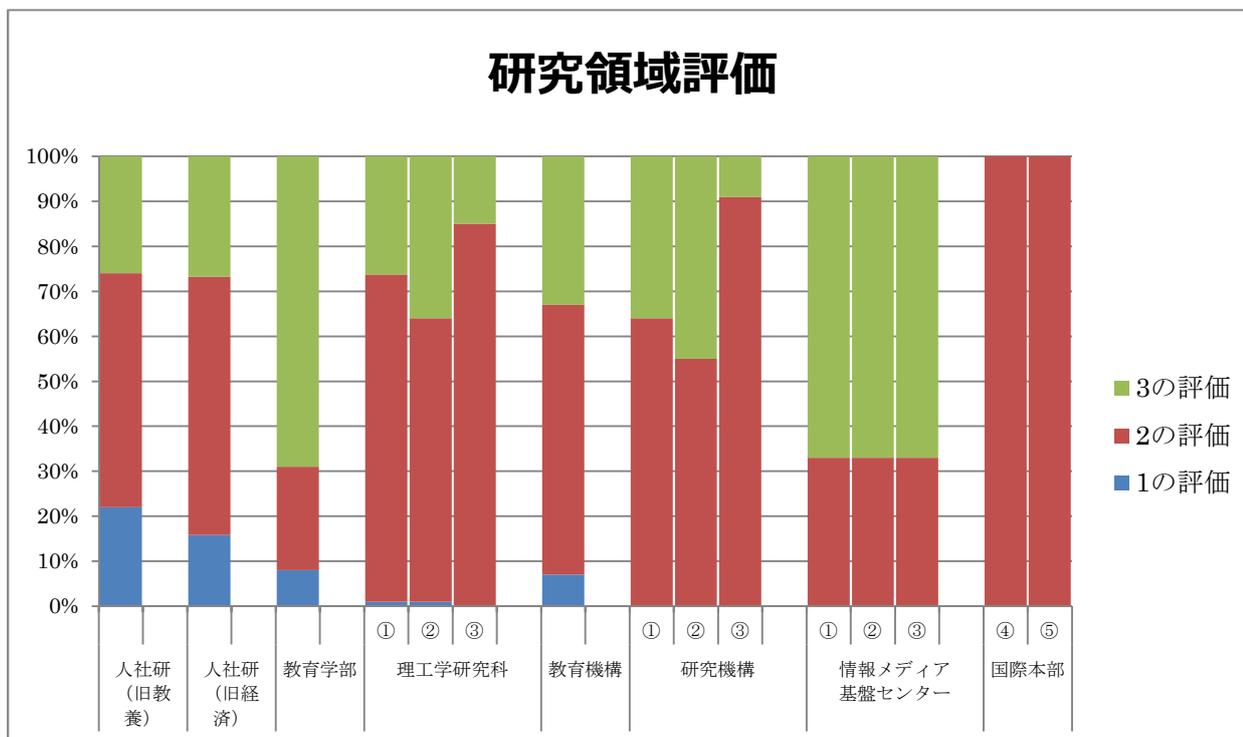
部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
人文社会科学研究科 (旧教養学部)		2	4%	33	66%	15	30%
人文社会科学研究科 (旧経済学部)		0	0%	23	51%	22	49%
教育学部		0	0%	29	29%	70	70%
理工学研究科	①講義・演習・実験	0	0%	193	89%	23	11%
	②研究指導	0	0%	184	85%	32	15%
	③教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	171	79%	45	21%
	④その他の教育活動	0	0%	209	97%	7	3%
教育機構		0	0%	7	47%	8	53%
研究機構	①講義・演習・実験	0	0%	11	100%	0	0%
	②研究指導	0	0%	11	100%	0	0%
	③教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	11	100%	0	0%
	④その他の教育活動	0	0%	10	91%	1	9%
情報メディア 基盤センター	①講義・演習・実験	0	0%	3	100%	0	0%
	②研究指導	0	0%	2	67%	1	33%
	③教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	3	100%	0	0%
	④その他の教育活動	0	0%	3	100%	0	0%
国際本部	⑤プログラムの企画・実施・改善	0	0%	3	75%	1	25%
	⑥教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	3	75%	1	25%
	⑦大学内外との調整/留学生相談等	0	0%	4	100%	0	0%



(内部用)

○研究領域

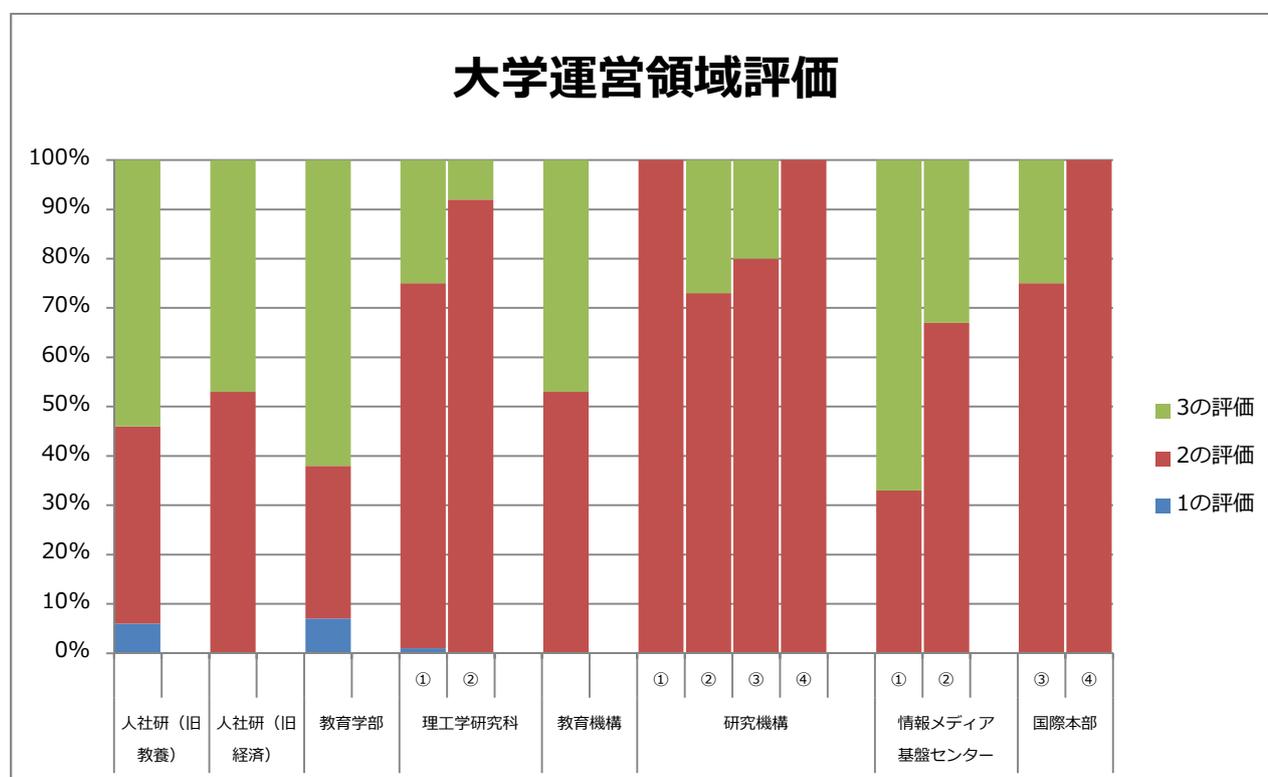
部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
人文社会科学研究所 (旧教養学部)		11	22%	26	52%	13	26%
人文社会科学研究所 (旧経済学部)		7	16%	26	58%	12	27%
教育学部		8	8%	23	23%	68	69%
理工学研究科	①研究・開発の成果	3	1%	156	72%	57	26%
	②研究・開発活動	1	1%	136	63%	79	36%
	③その他の研究・開発活動	0	0%	184	85%	32	15%
教育機構		1	7%	9	60%	5	33%
研究機構	①研究・開発の成果	0	0%	7	64%	4	36%
	②研究・開発活動	0	0%	6	55%	5	45%
	③その他の研究・開発活動	0	0%	10	91%	1	9%
情報メディア 基盤センター	①研究・開発の成果	0	0%	1	33%	2	67%
	②研究・開発活動	0	0%	1	33%	2	67%
	③その他の研究・開発活動	0	0%	1	33%	2	67%
国際本部	④研究業績	0	0%	4	100%	0	0%
	⑤大学内外との調整	0	0%	4	100%	0	0%



(内部用)

○大学運営領域

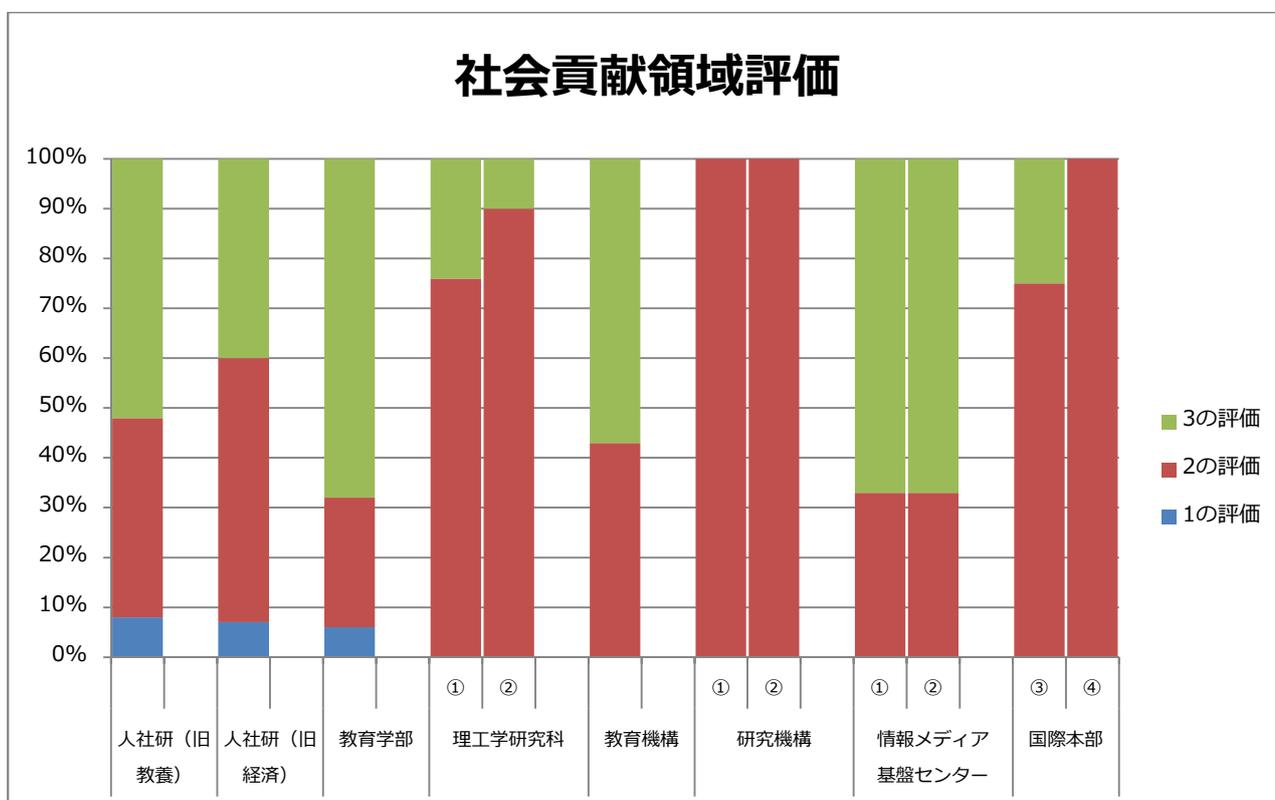
部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
人文社会科学研究所 (旧教養学部)		3	6%	20	40%	27	54%
人文社会科学研究所 (旧経済学部)		0	0%	24	53%	21	47%
教育学部		7	7%	31	31%	61	62%
理工学研究科	①委員会活動	1	1%	161	74%	54	25%
	②その他の大学運営	0	0%	198	92%	18	8%
教育機構		0	0%	8	53%	7	47%
研究機構	①委員会活動	0	0%	11	100%	0	0%
	②セミナー・講習会	0	0%	8	73%	3	27%
	③施設・設備等の維持管理	0	0%	4	80%	1	20%
	④その他の大学運営	0	0%	5	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①委員会活動	0	0%	1	33%	2	67%
	②その他の大学運営	0	0%	2	67%	1	33%
国際本部	③国際化への貢献	0	0%	3	75%	1	25%
	④外部資金獲得等への貢献	0	0%	4	100%	0	0%



(内部用)

○社会貢献領域

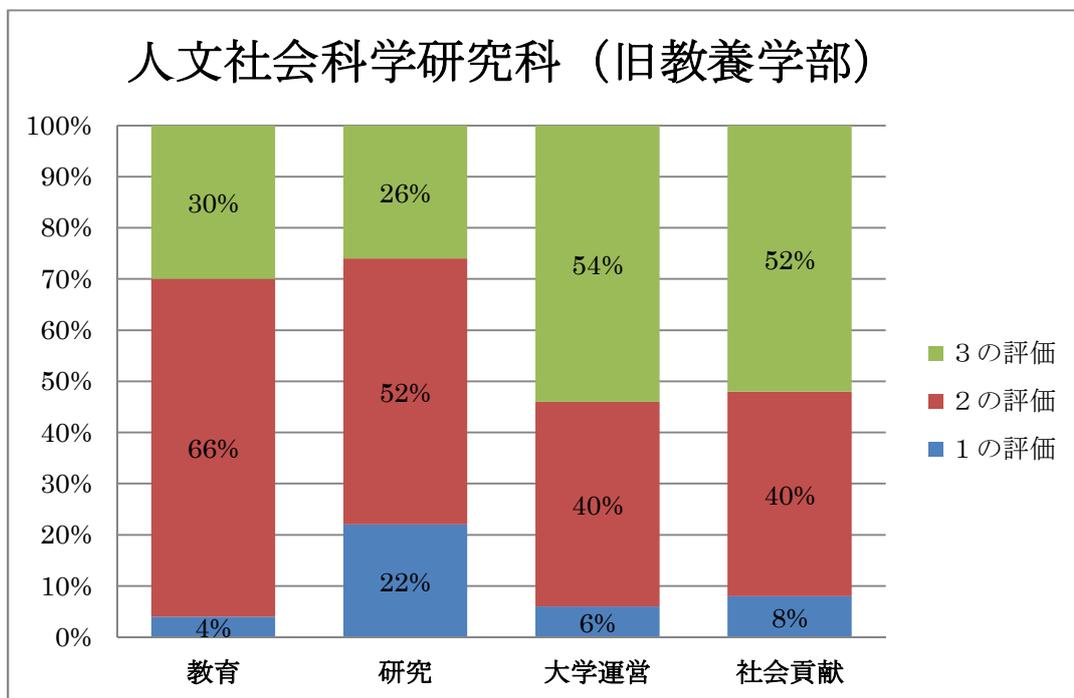
部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
人文社会科学研究科 (旧教養学部)		4	8%	20	40%	26	52%
人文社会科学研究科 (旧経済学部)		3	7%	24	53%	18	40%
教育学部		6	6%	26	26%	67	68%
理工学研究科	①学会活動	0	0%	165	76%	51	24%
	②その他の社会貢献	0	0%	194	90%	22	10%
教育機構		0	0%	3	43%	4	57%
研究機構	①学会活動	0	0%	11	100%	0	0%
	②その他の社会貢献	0	0%	11	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①学会活動	0	0%	1	33%	2	67%
	②その他の社会貢献	0	0%	1	33%	2	67%
国際本部	③連携協力	0	0%	3	75%	1	25%
	④JICA等との連携協力/ その他	0	0%	4	100%	0	0%



(内部用)

## 7. 部局別評価結果

(1) 人文社会科学研究科（旧教養学部）（評価対象人数:50名）



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	15	30%	13	26%	27	54%	26	52%
2の評価	33	66%	26	52%	20	40%	20	40%
1の評価	2	4%	11	22%	3	6%	4	8%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

4領域を通じて評価の高い教員が17名となっている。

② 評価の低い教員

4領域を通じて評価の低い教員が4名となっている。これは教養学部の評価基準が相対的に厳しいことに起因する結果と思われる。

③ 評価結果の総括、問題点等

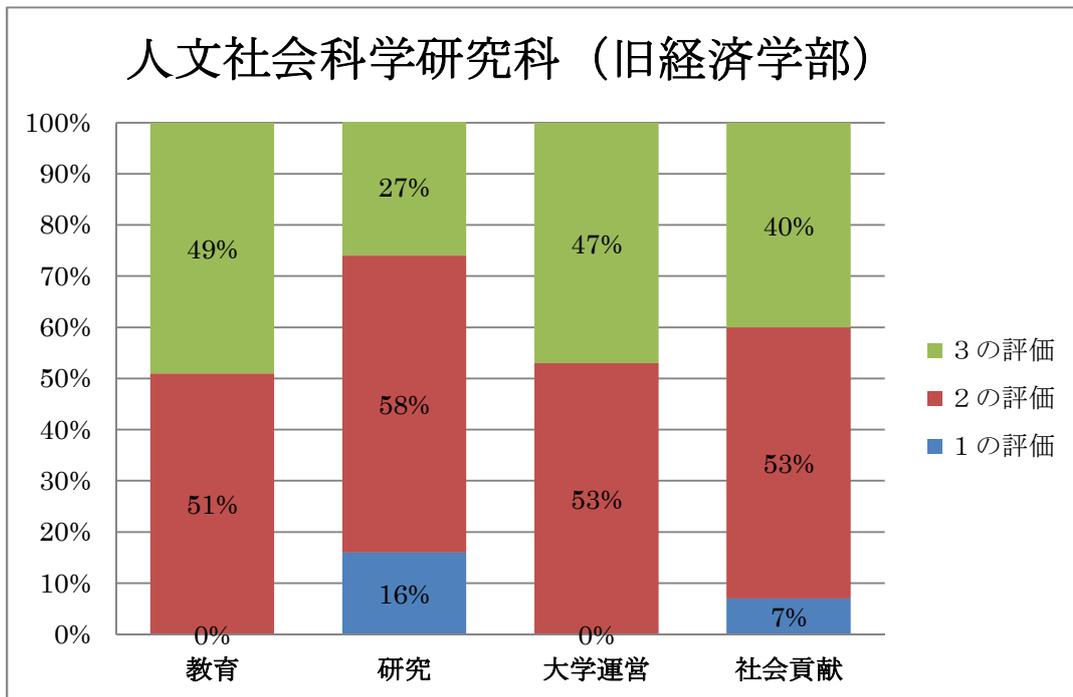
自己評価の基準の取り方にばらつきが見られる点を改善する必要がある。

④ 特記事項

特になし。

(内部用)

(2) 人文社会科学研究科（旧経済学部）（評価対象人数:45名）



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	22	49%	12	27%	21	47%	18	40%
2の評価	23	51%	26	58%	24	53%	24	53%
1の評価	0	0%	7	16%	0	0%	3	7%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

12ポイントの教員3名、11ポイントの教員3名、10ポイントの教員18名

② 評価の低い教員

4ポイント以下の教員0名、5ポイントの教員0名、6ポイントの教員2名

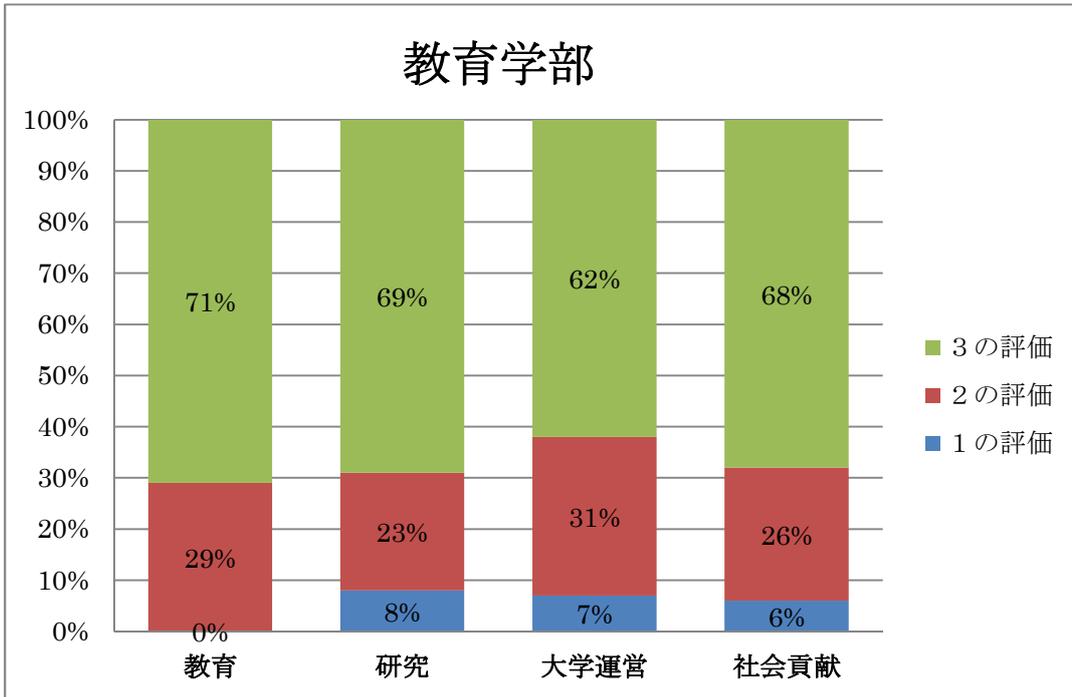
③ 評価結果の総括、問題点等

教員は2015年4月に人文社会科学研究科に所属替えになったが、今回の評価は2014年度の評価であるので、経済学部の「2014年度教員活動評価基準」に基づいて評価を行なった。

④ 特記事項

特になし。

(3)教育学部（附属教育実践総合センターを含む）（評価対象人数 99 名）



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	70	71%	68	69%	61	62%	68	68%
2の評価	29	29%	23	23%	31	31%	26	26%
1の評価	0	0%	8	8%	7	7%	6	6%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

4つの領域すべてで「3」と評価された教員は33人であった。

② 評価の低い教員数

何らかの領域で「1」と評価された教員は15人であった。そのうち、複数の領域で「1」と評価された教員は4人だけであった。

③ 評価結果の総括、問題点等

全体として教育学部教員は各領域で高い評価を得ている。領域で見ると、教育活動の評価が最も高く、大学運営の評価が最も低かった。教育には熱心に取り組むが、学部運営・大学運営への取り組みには消極的な姿がうかがえる。研究活動への取り組みに課題のある教員については、何らかの対応が必要であろう。

④ 特記事項

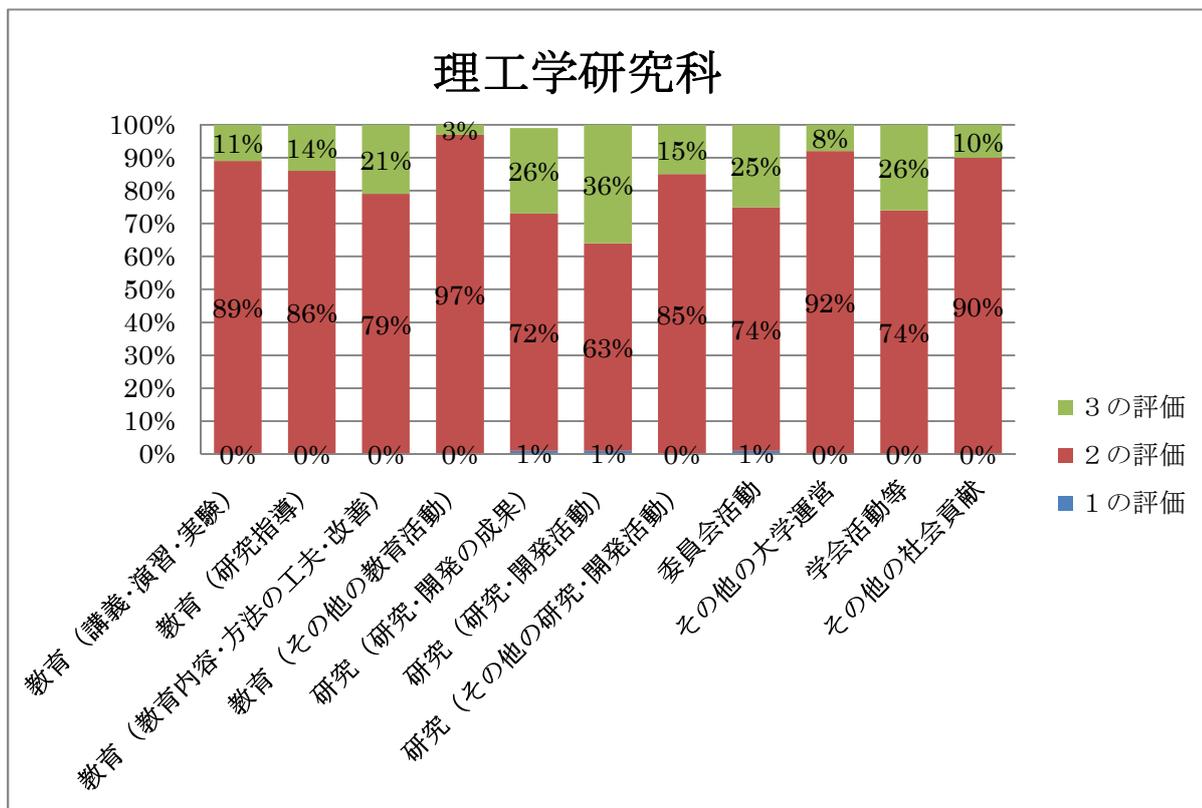
学校における事故を契機に危機管理対応マニュアルの普及・整備に取り組んでいる教員がおり、この

(内部用)

活動は全国的に注目され、多くの新聞等で報道されている。当該教員には全国の自治体、学校、医師会等から講演依頼がきており、大きな社会貢献となっている。

(内部用)

(4) 理工学研究科 (評価対象人数 216 名)



領域 項目	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	23	11%	27	14%	45	21%	7	3%
2の評価	193	89%	184	86%	171	79%	209	97%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
領域 項目	研究							
	研究・開発の成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動			
	人数	%	人数	%	人数	%		
3の評価	57	26%	79	36%	32	15%		
2の評価	156	72%	136	63%	184	85%		
1の評価	3	1%	1	1%	0	0%		
領域 項目	大学運営				社会貢献			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%

(内部用)

3の評価	54	25%	18	8%	51	26%	22	10%
2の評価	161	74%	198	92%	165	74%	194	90%
1の評価	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

5点高い教員数 10人、4点高い教員数 26人、3点高い教員数 41人、2点高い教員数 40人、1点高い教員数 63人。

② 評価の低い教員数

0人

③ 評価結果の総括、問題点等

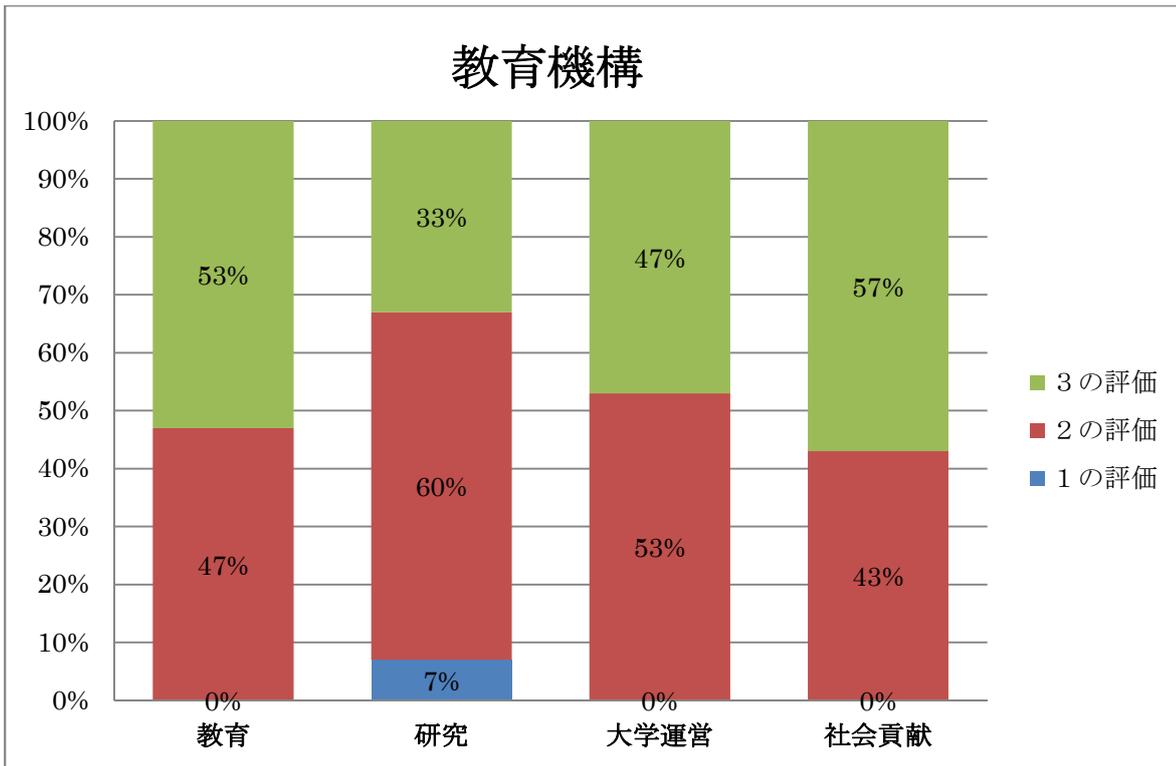
従来の方法を踏襲して、研究科長および副研究科長の合議による評価を行った。評価にあたっては、各コース長の意見も参考にした。

④ 特記事項

なし。

(内部用)

(5)教育機構 (評価対象人数 15 名)



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	8	53%	5	33%	7	47%	4	57%
2の評価	7	47%	9	60%	8	53%	3	43%
1の評価	0	0%	1	7%	0	0%	0	0%

※英語教育開発センターでは、社会貢献活動領域の評価を教育活動領域で実施することをセンターの評価実施要領で定めているため、社会貢献項目については、英語教育開発センター所属教員を除いた人数をグラフ化した。

○部局長コメント

① 評価の高い教員

すべて評価3の教員はいない。1つだけ評価2，他は評価3の教員は，5人である。

② 評価の低い教員

評価1が1つだけある教員が1人いる。また，すべてが評価2の教員が3人いる。

③ 評価結果の総括・問題点等

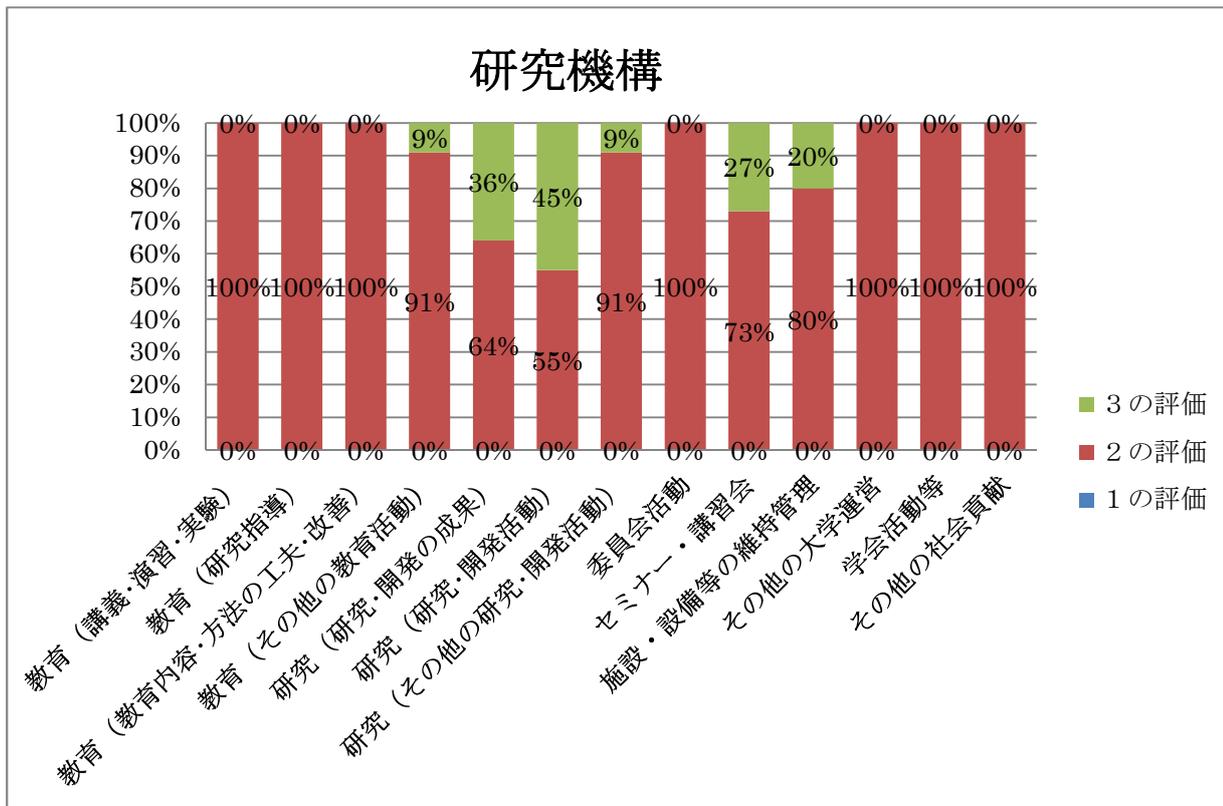
1つ評価1がある教員は，保健センターの教員であり，研究・開発の項目なので問題ありとは捉えていない。それ以外の教員は，すべて評価2以上なので，期待される水準，あるいはそれ以上の活動をしていて，問題ある教員はいないといえる。

④ 特記事項

特になし。

(内部用)

(6) 研究機構 (評価対象人数 12 名)



※オープンイノベーションセンター (対象教員 1 名) は、他のセンターと評価項目が異なるため、グラフには含まない。

領域 項目	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	0	0%	0	0%	0	0%	1	9%
2の評価	11	100%	11	100%	11	100%	10	91%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
領域 項目	研究							
	研究・開発の成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動			
	人数	%	人数	%	人数	%		
3の評価	4	36%	5	45%	1	9%		
2の評価	7	64%	6	55%	10	91%		
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%		
領域	大学運営						社会貢献	

(内部用)

項目	委員会活動		セミナー・講習会		施設・設備等の維持管理		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	0	0%	3	27%	1	20%	0	0%	0	0%	0	0%
2の評価	11	100%	8	73%	4	80%	5	100%	11	100%	11	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

11名の教員が、高い評価。その内、4名が特に高い評価。

② 評価の低い教員

なし

③ 評価結果の総括・問題点等

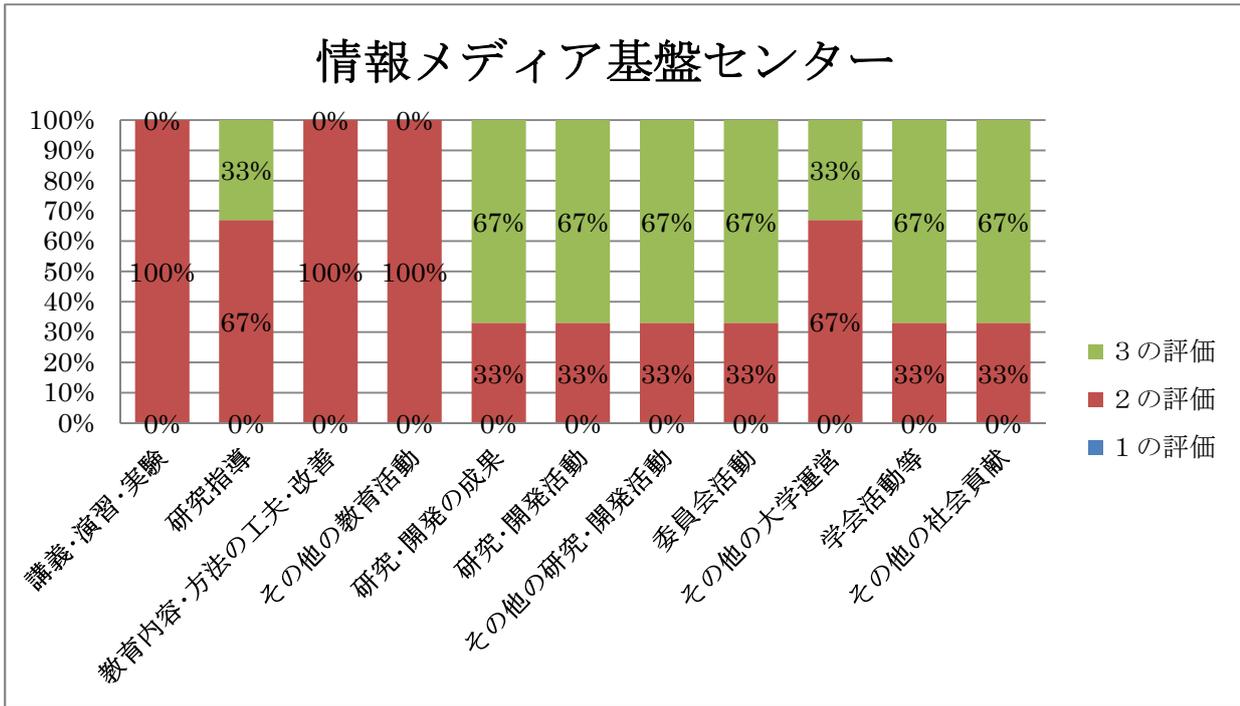
テニュアトラック教員、科学分析支援センターおよびイノベーションセンター所属教員を単純に、高い評価、あるいは、低い評価と判断するのは難しい。テニュアトラック教員については、関連の部局と話し合って今回評価した。教員の将来を考えると、今後は、現在の所属ではなく、関連部局で評価した方が、よいと考える。検討願いたい。

特記事項

特になし。

(内部用)

(7) 情報メディア基盤センター (評価対象人数: 3名)



領域 項目	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	0	0%	1	33%	0	0%	0	0%
2の評価	3	100%	2	67%	3	100%	3	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
領域 項目	研究							
	研究・開発の成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動			
	人数	%	人数	%	人数	%		
3の評価	2	67%	2	67%	2	67%		
2の評価	1	33%	1	33%	1	33%		
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%		
領域 項目	大学運営				社会貢献			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	2	67%	1	33%	2	67%	2	67%
2の評価	1	33%	2	67%	1	33%	1	33%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

(内部用)

○部局長コメント

① 評価の高い教員

2名

② 評価の低い教員

なし

③ 評価結果の総括・問題点等

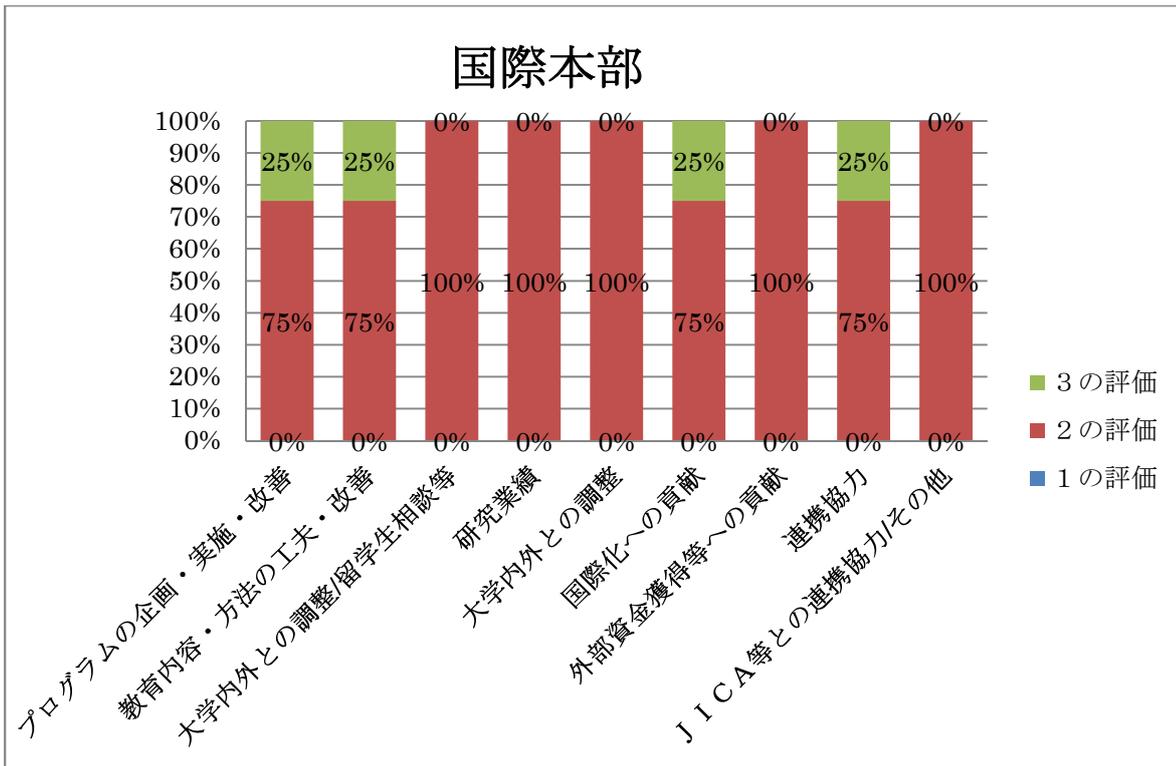
各教員は、基本的に教育研究に熱心に取り組んでいる。特に研究に関しては、高いレベルを目指した、優れた成果発表がなされている。

④ 特記事項

2名の教員においては、地域貢献が特に顕著である。

(内部用)

(8) 国際本部 (評価対象人数: 4名)



領域 項目	教育						研究			
	プログラムの企画・実施・改善		教育内容・方法の工夫・改善		大学内外との調整/留学生相談等		研究業績		大学内外との調整	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	1	25%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%
2の評価	3	75%	3	75%	4	100%	4	100%	4	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
領域 項目	大学運営				社会貢献					
	国際化への貢献		外部資金獲得等への貢献		連携協力		JICA等との連携協力/その他			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
3の評価	1	25%	0	0%	1	25%	0	0%		
2の評価	3	75%	4	100%	3	75%	4	100%		
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%		

○部局長コメント

① 評価の高い教員

1名

② 評価の低い教員

(内部用)

0名

③ 評価結果の総括、問題点等

教員活動評価については、教員活動評価実施要領に則り適切に行い、その結果を踏まえ、国際本部の各教員は、本学の国際化の基盤作りに貢献していると判断した。

④ 特記事項

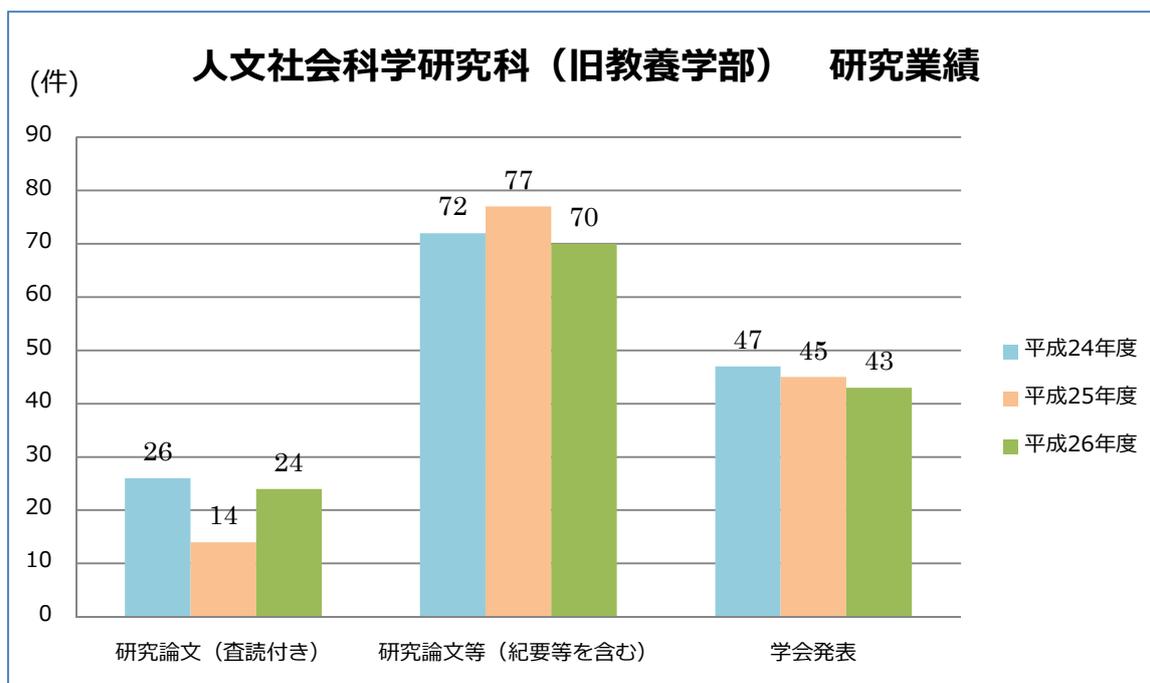
特になし。

(参考)

### 研究業績の推移（過去3年間：平成24年度実績～平成26年度実績）

評価対象教員の提出した過去3年分の教員活動報告書に記載された査読付き研究論文、研究論文等（紀要を含む）、学会発表の各データを部局ごとに集計した。

#### (1) 人文社会科学研究科（旧教養学部）

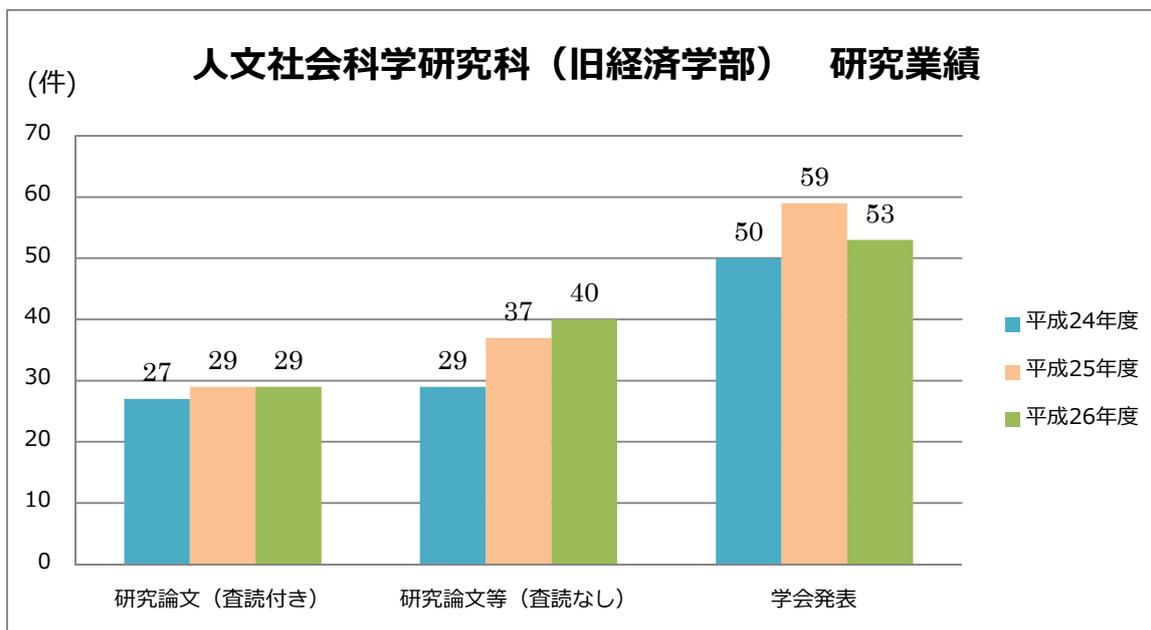


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要を含む)		学会発表	
		件数	( )	件数	( )	件数	( )
平成24年度	47	26件	(0.55)	72件	(1.53)	47件	(1.00)
平成25年度	46	14件	(0.30)	77件	(1.67)	45件	(0.98)
平成26年度	50	24件	(0.48)	70件	(1.40)	43件	(0.86)

( )…1人あたりの業績

(参考)

(2) 人文社会科学研究科 (旧経済学部)

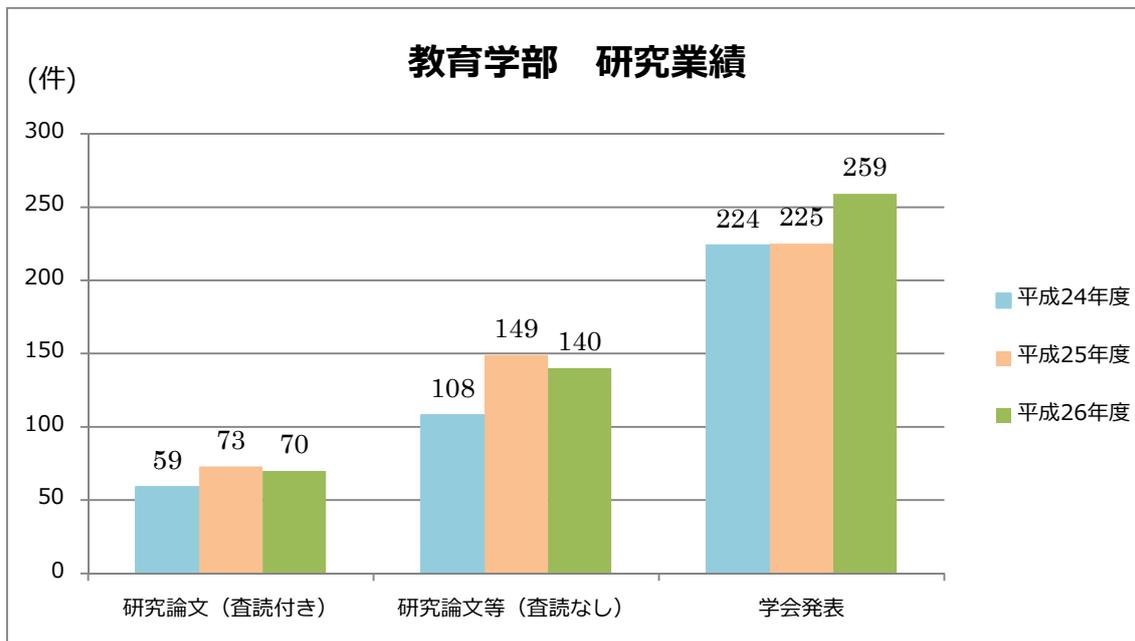


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要を含む)		学会発表	
		件数	( )	件数	( )	件数	( )
平成 24 年度	50	27 件	(0.54)	29 件	(0.58)	50 件	(1.00)
平成 25 年度	44	29 件	(0.66)	37 件	(0.84)	59 件	(1.34)
平成 26 年度	45	29 件	(0.64)	40 件	(0.89)	53 件	(1.18)

( )… 1人あたりの業績

(参考)

(3) 教育学部（附属教育実践総合センターを含む）

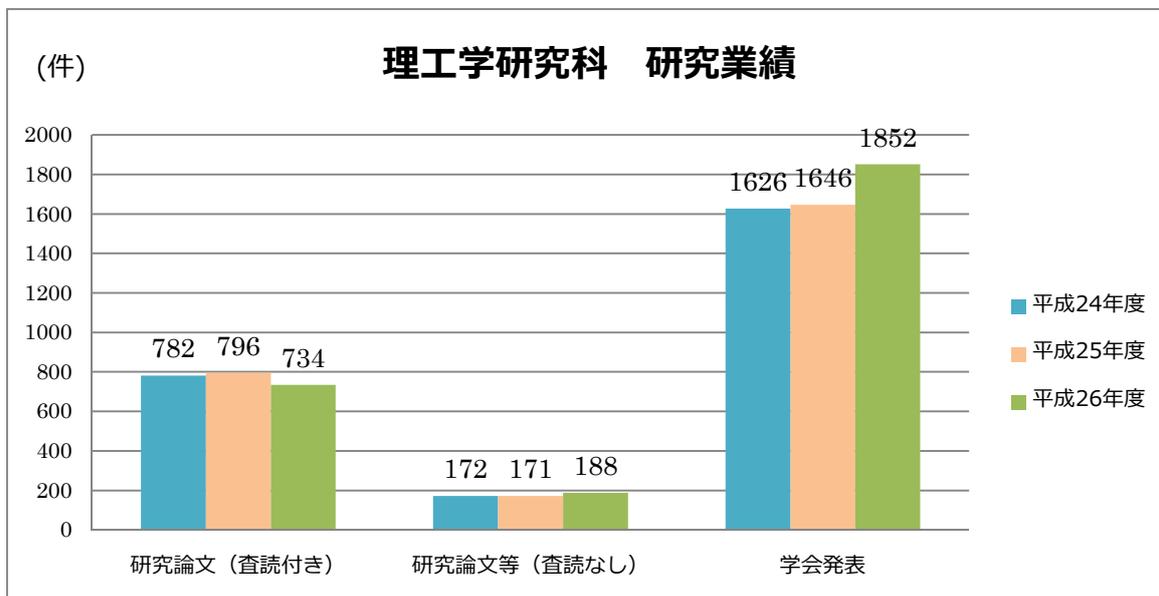


実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（紀要を含む）		学会発表	
		件数	(人あたり)	件数	(人あたり)	件数	(人あたり)
平成 24 年度	101	59 件	(0.58)	108 件	(1.07)	224 件	(2.22)
平成 25 年度	103	73 件	(0.71)	149 件	(1.45)	225 件	(2.18)
平成 26 年度	99	70 件	(0.71)	140 件	(1.41)	259 件	(2.62)

( )… 1人あたりの業績

(参考)

(4) 理工学研究科

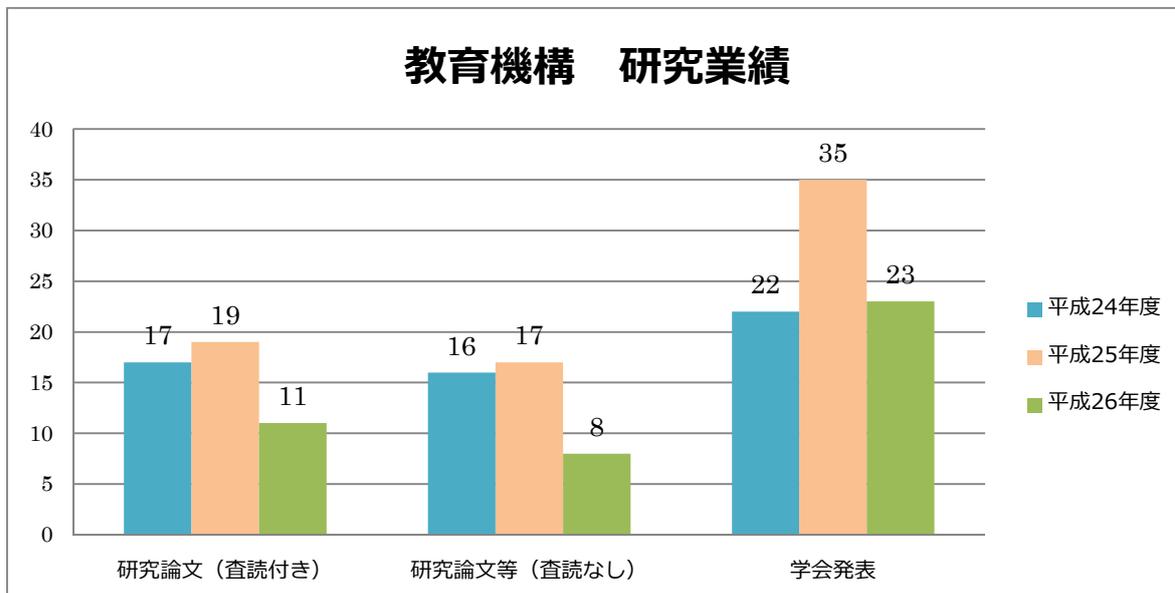


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要を含む)		学会発表	
		件数	(人あたり)	件数	(人あたり)	件数	(人あたり)
平成 24 年度	186	782 件	(4.20)	172 件	(0.92)	1626 件	(8.74)
平成 25 年度	191	796 件	(4.17)	171 件	(0.90)	1646 件	(8.62)
平成 26 年度	216	734 件	(3.40)	188 件	(0.87)	1852 件	(8.57)

( )… 1人あたりの業績

(参考)

(5) 教育機構

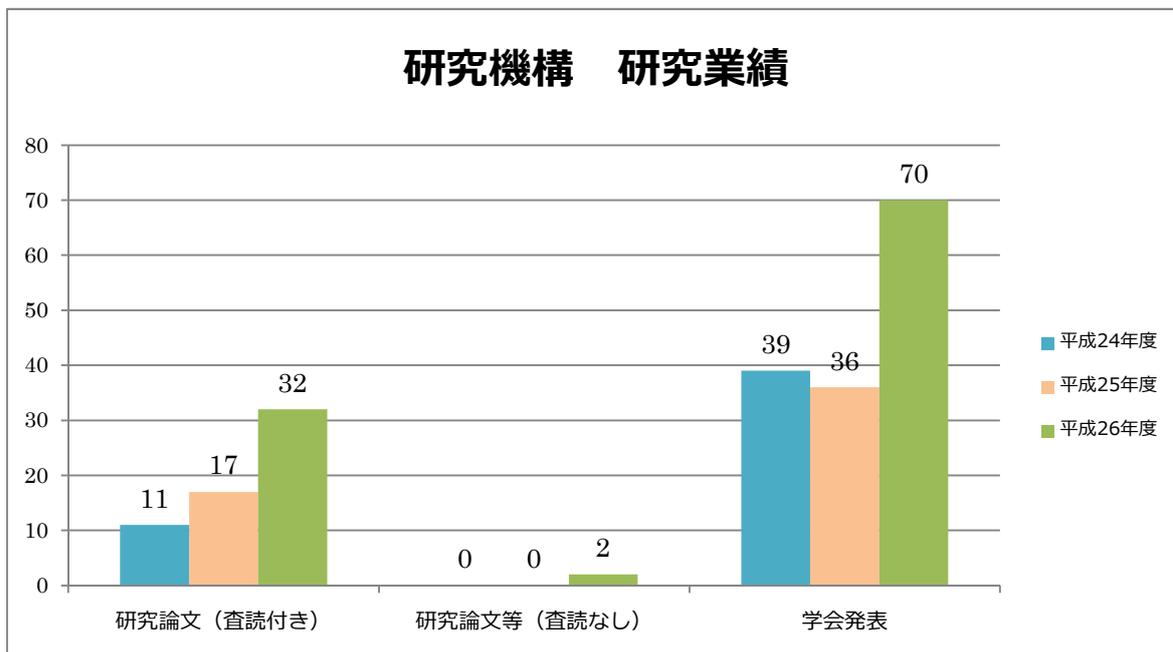


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要を含む)		学会発表	
		件数	( )	件数	( )	件数	( )
平成 24 年度	16	17 件	(1.06)	16 件	(1.00)	22 件	(1.38)
平成 25 年度	18	19 件	(1.06)	17 件	(0.94)	35 件	(1.94)
平成 26 年度	15	11 件	(0.73)	8 件	(0.53)	23 件	(1.53)

( )…1人あたりの業績

(参考)

(6) 研究機構

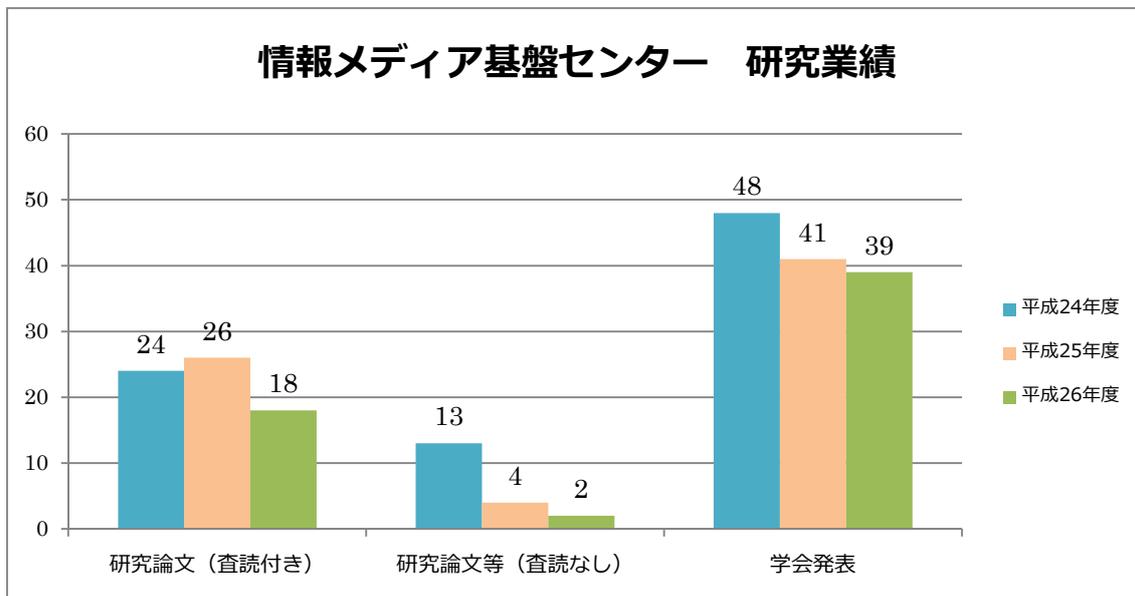


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要を含む)		学会発表	
		件数	( )	件数	( )	件数	( )
平成 24 年度	17	11 件	(0.65)	0 件	(0.00)	39 件	(2.29)
平成 25 年度	8	17 件	(2.13)	0 件	(0.00)	36 件	(4.50)
平成 26 年度	12	32 件	(2.67)	2 件	(0.17)	70 件	(5.83)

( )…1人あたりの業績

(参考)

(7) 情報メディア基盤センター

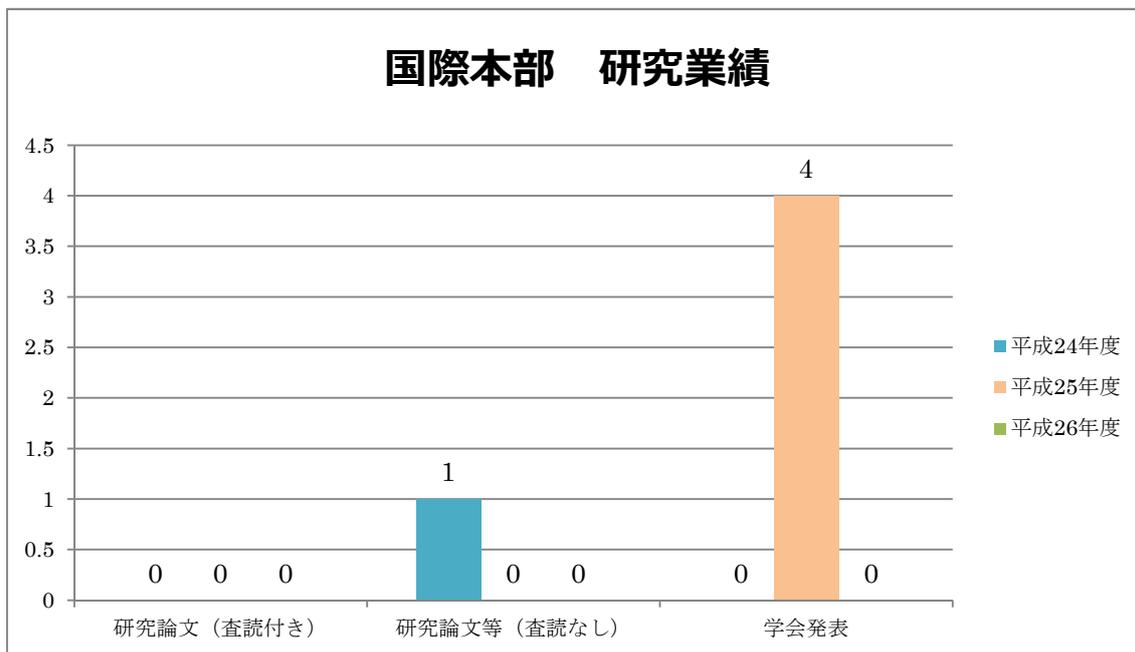


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要を含む)		学会発表	
		件数	平均値	件数	平均値	件数	平均値
平成 24 年度	3	24 件	(8.00)	13 件	(4.33)	48 件	(16.00)
平成 25 年度	3	26 件	(8.67)	4 件	(1.33)	41 件	(13.67)
平成 26 年度	3	18 件	(6.00)	2 件	(0.67)	39 件	(13.00)

( )… 1人あたりの業績

(参考)

(8) 国際本部



実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要を含む)		学会発表	
		件数	( )	件数	( )	件数	( )
平成 24 年度	4	0 件	(0.00)	1 件	(0.25)	0 件	(0.00)
平成 25 年度	5	0 件	(0.00)	0 件	(0.00)	4 件	(0.80)
平成 26 年度	4	0 件	(0.00)	0 件	(0.00)	0 件	(0.00)

( )… 1人あたりの業績